

H24 年国公 2 次試験専門問題解説（水理）

【No.20】

(1)(a)

連続式は,

$$v_1 A_1 = v_2 A_2 \quad (\text{i})$$

エネルギー保存式は,

$$\frac{v_1^2}{2g} + z_1 + \frac{p_1}{\rho g} = \frac{v_2^2}{2g} + z_2 + \frac{p_2}{\rho g} + h_l \quad (\text{ii})$$

次に, 管路の中心軸の基準面からの傾き角を θ とおくと, 2 断面間の距離は $(z_2 - z_1)/\sin\theta$ とおける. よって, 運動量保存式は,

$$\rho v_2^2 A_2 - \rho v_1^2 A_1 = -\frac{\rho g \sin\theta A_2 (z_2 - z_1)}{\sin\theta} + A_1 p_1 + A_e p_e - A_2 p_2$$

ここで, A_e は断面①における壁面部の面積 ($=A_2 - A_1$), p_e は A_e に作用している圧力と考える. 通常, $p_e = p_1$ と考えてよいので上式は,

$$\rho v_2^2 A_2 - \rho v_1^2 A_1 = -\rho g A_2 (z_2 - z_1) + A_2 p_1 - A_2 p_2 \quad (\text{iii})$$

とおける.

(b)

(i) より, $v_2 = v_1 \frac{A_1}{A_2}$, (iii) より, $p_1 - p_2 = \rho v_1^2 \left(\frac{A_1}{A_2}\right)^2 - \rho v_1^2 \frac{A_1}{A_2} + \rho g (z_2 - z_1)$ が得られる. これを (ii) へ代入することで,

$$\begin{aligned} h_l &= \frac{1}{2g} (v_1^2 - v_2^2) + z_1 - z_2 + \frac{1}{\rho g} (p_1 - p_2) \\ &= \frac{v_1^2}{2g} \left\{ 1 - \left(\frac{A_1}{A_2}\right)^2 \right\} + \frac{v_1^2}{g} \left\{ \left(\frac{A_1}{A_2}\right)^2 - \frac{A_1}{A_2} \right\} \\ &= \frac{v_1^2}{2g} \left(1 - \frac{A_1}{A_2} \right)^2 \end{aligned}$$

(c)

断面①, ②におけるピエゾ水頭は, それぞれ,

$$\phi_1 = z_1 + \frac{p_1}{\rho g}, \quad \phi_2 = z_2 + \frac{p_2}{\rho g}$$

より, 変化量は,

$$\Delta\phi = \phi_2 - \phi_1 = z_2 + \frac{p_2}{\rho g} - \left(z_1 + \frac{p_1}{\rho g} \right) = \frac{v_1^2}{g} \frac{A_1}{A_2} \left(1 - \frac{A_1}{A_2} \right)$$

(2)(a)

$\frac{\partial M}{\partial h} = 0$ となる場所を求めればよい。よって、比力の定義式より、

$$\frac{\partial M}{\partial h} = -\frac{q^2}{g} \frac{1}{h^2} + h = 0$$

よって、 $h_{cM} = \sqrt[3]{q^2/g}$ (すなわち、限界水深) となる。これを定義式へ代入すれば、

$$M_{min} = \frac{3}{2} h_{cM}^2 = \frac{3}{2} \sqrt[3]{q^2/g}^2$$

(b)

比エネルギーの定義式は、 $E = \frac{q^2}{2gh^2} + h$ より、 $\frac{\partial E}{\partial h} = 0$ となる水深を求めればよい。よって、

$$\frac{\partial E}{\partial h} = -\frac{q^2}{g} \frac{1}{h^3} + 1 = 0 \quad \therefore h_{cE} = \sqrt[3]{q^2/g}$$

となり、一致することが示される。

(c)

比エネルギーの定義式より、

$$\Delta E = E_1 - E_2 = \left[\frac{q^2}{2gh^2} + h \right]_1 - \left[\frac{q^2}{2gh^2} + h \right]_2 = (h_1 - h_2) \left(1 - \frac{q^2}{2g} \frac{h_1 + h_2}{h_1^2 h_2^2} \right)$$

比力は跳水前後で変化しないので、

$$\left[\frac{q^2}{gh} + \frac{h^2}{2} \right]_1 = \left[\frac{q^2}{gh} + \frac{h^2}{2} \right]_2$$

が成り立つ。よって、

$$(h_1 - h_2) \left(h_1 + h_2 - \frac{2q^2}{g} \frac{1}{h_1 h_2} \right) = 0 \quad \therefore \frac{2q^2}{g} = h_1 h_2 (h_1 + h_2)$$

これを ΔE へ代入すると、

$$\Delta E = (h_1 - h_2) \left(1 - \frac{1}{4} h_1 h_2 (h_1 + h_2) \frac{h_1 + h_2}{h_1^2 h_2^2} \right) = \frac{(h_2 - h_1)^3}{4h_1 h_2}$$

※共役水深の式が与えられているが、この式が比力一定の条件から導出されるものであるため、同様に誘導可能である。

(d)

比エネルギー図中で、 $h_1 = h_a$, $h_2 = h_e$ に相当するので、(c)で得られた解より、

$$\Delta E = \frac{(h_e - h_a)^3}{4h_a h_e}$$

(3)(a)

$$P_1 = \int_0^{d_1} p(y)dy = \int_0^{d_1} \rho g y \cos\theta dy = \frac{1}{2} \rho g d_1^2 \cos\theta$$

(b)

各断面の流速は、連続式より、それぞれ $q/d_1, q/d_2$ と表される。さらに対象区間の水の重量の流下方向成分を W_x とすれば、 $W_x = W \sin\theta = \frac{\rho g}{2} KL(d_1 + d_2) \sin\theta$ である。

運動量保存式は、

$$\rho q \left(\frac{q}{d_2} - \frac{q}{d_1} \right) = W_x + P_1 - P_2$$

より、

$$\rho q^2 \left(\frac{1}{d_2} - \frac{1}{d_1} \right) = \frac{\rho g}{2} KL(d_1 + d_2) \sin\theta + \frac{1}{2} \rho g d_1^2 \cos\theta - \frac{1}{2} \rho g d_2^2 \cos\theta$$

$$q^2 \left(\frac{1}{d_2} - \frac{1}{d_1} \right) = \frac{g}{2} [KL(d_1 + d_2) \sin\theta + (d_1^2 - d_2^2) \cos\theta] \quad (A)$$

(c)

(A)式について整理すると、

$$\frac{2q^2}{g} \left(\frac{1}{d_2} - \frac{1}{d_1} \right) = KL(d_1 + d_2) \sin\theta + (d_1^2 - d_2^2) \cos\theta$$

$$2Fr_1^2 d_1^3 \left(\frac{1}{d_2} - \frac{1}{d_1} \right) = (d_1^2 - d_2^2) \left[-\frac{KL \sin\theta}{d_2 - d_1} + \cos\theta \right]$$

$$2G^2 d_1^3 \left(\frac{1}{d_2} - \frac{1}{d_1} \right) = (d_1^2 - d_2^2)$$

両辺に d_2/d_1^3 をかけると、

$$2G^2 \left(1 - \frac{d_2}{d_1} \right) = \frac{d_2}{d_1} - \left(\frac{d_2}{d_1} \right)^3$$

$$\therefore \left(\frac{d_2}{d_1} \right)^3 - (2G^2 + 1) \frac{d_2}{d_1} + 2G^2 = 0$$

(d)

G は定数より、3次方程式の解を得ればよい。この式は因数分解できて、

$$\left(\frac{d_2}{d_1} - 1 \right) \left\{ \left(\frac{d_2}{d_1} \right)^2 + \frac{d_2}{d_1} - 2G^2 \right\} = 0$$

よって、 $d_2=d_1$ となる解と、

$$\frac{d_2}{d_1} = \frac{1}{2} \left(\pm \sqrt{1 + 8G^2} - 1 \right) = \frac{1}{2} \left(\sqrt{1 + 8G^2} - 1 \right)$$

が得られる。根号の前の符号は正しかとれないので、最後の解が得られる。